千曲市復興計画策定委員会
住まいと暮らしの再建部会　議事録（要旨）

日時　令和２年７月３０日
　　午後２時００分～
会場　千曲市役所　庁議室

１．開　会

２．部会長あいさつ
　部会長：島田市民環境部長

３．会議事項
（事務局にて進行）
　本日の部会では何か決定をするものではない。
　委員の皆様の経験などからご自由にご意見を頂きたい。

（１）市民アンケートについて（資料１）
　　（事務局より説明）
（２）具体的な施策の検討について（資料２）
　　（事務局より説明）

【議事】
（事務局）
　初めに被災時の様子について、当時の経験を踏まえたお考えを皆さんで共有したい。
（高野委員）
　自宅は床上浸水だった。
　体育館に避難したが、朝になって明るくなっても帰宅できなかった。自宅の方角を見ると水が漬いていた。
　帰宅したところ家の中も大きな被害を受けており、一日目は途方に暮れてしまった。

その後片付けなどをしていく中で一番悲しかったことは、罹災証明の現地調査の折、市の職員と外部からの応援の方だったが、必死で掃除をした家の様子を見て「これならきれいですね。大丈夫ですね。」と言われたことだった。

その言葉を聞いて被災の認定が受けられないのかと思い不安になった。

千曲市の罹災証明が遅かったこともあり、近所の方を含めて非常に不安なまま生活することになった。認定は受けられ、その後は色々な支援があったため助かった。

次に情報が少ないことが困った。ごみ捨てや支援物資の配布など、少ししか情報が入ってこない。市役所に問い合わせをしてもホームページを見てくださいと言われるが、泥だらけで片付けをしている状況でホームページは見ていられない。

高齢者もホームページは見ることができない。

電話をするとあちこちたらい回しされた挙句、担当がいないので分かりませんとか上司に聞かないと分かりませんと言われる。

市の職員も一生懸命やってくれてはいたと思うが、被災者にとってこういった対応は悲しいことだった。

重要な情報はホームページに出すだけでなく、立て看板を設置して地域の人が見られるようにしてはどうかと思った。そうすればその場所で集まり、近所の方と情報交換もできるし助け合いもできる。昔ながらのやり方が必要ではないか。

もう少し言えば、そこに市役所の困りごと相談の出張窓口を開設してもらえれば、市役所まで行く必要もなく心強いと思う。

今回は車が水没した方も多く市役所までの足がない人もいたし、もっと広範囲で被災した場合は市役所まで出向くことも大変になる。

被災後少ししてから市長が区長と一緒に地域を回ってきた。保健師も体調確認に来てくれたが、自分たちが忘れられていないことを確認できて、力になった。

最初のころに市職員がきれいな化粧をして回ってきた。そして「床上ですね」の一言で帰ってしまった。そんな調査があるのかと悲しかった。

被災すると気持ちが卑屈になってしまう。不満もたくさん出てしまうので、できる限りそういった被災者の気持ちに寄り添った対応をして欲しい。

（事務局）

お話を伺うと職員が大変失礼な発言をしてしまった。この場を借りてお詫び申し上げる。

（高野委員）

職員全てがそういう訳ではないし、今になって考えれば初めてのことで大変だったことも分かる。しかし、被災当時の状況では近所の方も含めてそういったことに傷ついた人がいることも知って欲しい。

（赤沼−委員）

社協は10月14日に市と協議し、翌15日からボランティアセンターを立ち上げた。

立ち上げは早かったが、災害ボランティアを受け入れるという経験がなかったため、受け入れまでの流れが予想できなかった。

被害の状況も良く分からない中で、経験のある県社協と相談しながら進めた。

開始直後は県内の方に限って受け入れをしたが、県外からも多くの方が駆けつけてくれた。

被災後最初の週末には300名以上の方にお越し頂いたが、受け入れの対応が困難となり失礼ながら長野市の被災地に向かって頂いた。

反省点は、情報伝達に問題があったこと。被災者にしっかりボランティアセンター立ち上げの情報が届いていればもっと多くのボランティアへの要請があったと思う。

今回の被災の中心地は杭瀬下、屋代だったが、被害は全市的に及んでいた。そのためサテライト的な機能があれば遠方でももう少し早い対応ができたのではないかと感じた。長野市では公民館などを活用していたようだ。

またボランティアセンターを閉じた後の継続的な支援、アフターフォローができなかったことも反省点だった。

ただボランティアの方には遠方からもお越し頂き、色々なニーズに対しても何か言うこともなく一生懸命やって頂き感謝している。

先日長野市の長沼地区で床下の泥出しを手伝ってきた。そちらではまだ水が床下に残っている状況で生活されている方がいる。

千曲市は大分落ち着いてきたと思うが、まだまだアフターフォローが必要な方がいるのではないか。そういった方の支援を考える必要があるのではと感じた。

（事務局）

長野市との連携はどのようにしているのか。

（赤沼一委員）

県社協が中心となっているので、そちらからの情報共有がある。

長野市は組織が大きいので千曲市とは違うところもあるが、色々参考にさせて頂いた。

（事務局）

民生委員の状況をお聞かせ頂きたい。

（竹内委員）

福井区の民生委員を務めている。

色々な話を聞くと、千曲市全体では地域によって全く状況が違うという印象を受ける。

福井区では風が強く玄関ドアを開けることができなかった。

何が飛ばされてくるか分からない状況で外にも出られなかったため、一人暮らしのご家庭に一軒一軒電話をかけて安否の確認をした。

土曜日だったこともあり家族が来ているところも多かったが、電話の応答がない家もあったため、隣家の方に確認をしてもらったりもした。

夜間に公民館は開けていたが、避難する方はいなかった。翌朝状況を確認したところ、倒木被害や雨漏り、風による被害を受けた家があった。

区長と話をしたが、今回の災害ではそこまで大きな被害ではなかったものの、少し状況が変われば被害も大きくなることが予想される。そうした場合に、どのように区民に動いてもらうか、どのように一人暮らしの方を支援するかを徹底すべきと確認し合った。

（事務局）

赤沼委員には当時の杭瀬下区長として大変ご苦労頂いた。

（赤沼義委員）

杭瀬下は市内でも被災した方が圧倒的な多数を占めている。400 を超える世帯が床上、床下浸水という状況だった。

現場で感じたこととして、高野委員のおっしゃったように情報伝達が非常に悪かった。今回の災害は短期間だったので何とかなっただけだと感じた。

夕方に避難所となった体育館へ向かった。一人暮らしの方の安否確認のため受付で職員に避難状況を尋ねたところ、分かりませんと言われた。

なぜ分からないのかと聞くと、名簿を作っていないと答えた。そのためすぐに名簿を作るよう言うと、本部に確認を取ってから作ると言われた。現場職員がその程度のレベルであった。

そのような状況だったため、膝まで水があったが一人暮らしの方のお宅を直接訪問して安否確認をした。

本来であれば避難所に対策本部の情報を熟知した職員をチーフとして置き、その指示で名簿も作成すべき。

防災計画でも逃げ遅れをなくすことを大きな目的としているが、確認ができなければ逃げ遅れがあるかも分からない。このような状況ではもっと大規模な災害には対応できないということを対策本部で認識して欲しい。

また、対策本部からの情報は決定も遅いし伝達も悪い。区長には最初に情報を出すべき。住民から問い合わせがあっても、区長には情報が来ていないため対応できない。

まずは一元的な情報発信者を決めて、責任をもって地域の代表者に伝えるようにしなければ情報が錯綜してしまう。

被災者は一刻も早い対応を求めている。対策本部の会議中で分かりませんなどと言っている場合ではない。

また、ごみ捨てについての対応。水が引いて被災者が一番先に必要とすることはごみの捨て場所。市役所に連絡をしても場所について色々と言って時間ばかりかかる。

地元区長の方が場所を知っているのだから場所決めは任せるべき。そのために必要な措置を市役所は講じれば良い。

以前自分が災害対応にあたったときはもっとスピーディーにできていた。その当時と何が違うのかは不明。

とにかく次に何があるかを考えて、短時間のうちにアクションを起こすこと。それを職員が熟知していることが必要。

杭瀬下には老人福祉施設が２か所ある。職員に聞いても分からないのでどうしたら良いかと相談を受けた。それで避難のスペースを作った。

病院や福祉施設などの状況を理解した上で避難所の設営をすることを考えて欲しい。

老人施設の方は足も悪いし、避難する際マットが必要になる。避難所に用意をするのか、施設から持参してもらうのか事前に決めておく必要がある。

無料入浴券についても、配布することは良いが使用方法などの情報をしっかりと伝えることが先では。一枚で何回でも利用可能だったが、当初は使い捨てだと思い何枚も渡していた。

それぞれの課で実施しているためなのか分からないが、対策本部で一元的な情報管理をしなければならない。

対策本部で協議することも必要だが、その情報を素早く現場に届けなければ協議する意味はない。

被災したことは仕方がないが、市民に安心感を与えることが必要。しっかりと情報伝達をすることで安心感につながる。

普段であればホームページに載せて、情報を取りにきて下さいでも良いが、災害時はそうではない。

今回の災害では市役所の内部ですら情報が錯綜していた。情報の一元化が何よりも重要と考える。とにかく正確な情報を早く伝えるようにして欲しい。

ボランティアについても初めてのことだったため、住民が頼んでも良いのか分からないという状況があった。しばらくすると利用も増えて助かったという声も聞いたが、今後に生かして欲しい。

（事務局）

情報伝達が欠けていたと反省している。

立て看板の設置も検討する。
市側の意見も頂きたい。
（島田市民環境部長）
当時の状況として、水位が急に上がったことから避難指示のタイミングが難しかった。並行して職員の動員をしたが時間的な余裕がなかった。
その後の避難所への職員配備やご指摘のあった名簿の用意など徹底ができていなかったことは大きな反省点。
ごみ捨てにしても、区長と相談して開設したが、次々に搬入されて受け入れ側の手が足りず対応が後手になってしまった。
また住民の安心につながるということで情報伝達の重要性を再度認識した。重要な情報については掲示板などを設けることも必要だと感じた。
ボランティアセンターについても、市長の指示を受け立ち上げを急いだが、ハード面を整えてもソフト面でノウハウが足りず、社協に任せきりとなってしまった。
庁舎の周りも水が漬いた関係で、職員を出すことも難しくなり、現場での連絡員が不足したことも後手対応であった。
罹災証明の調査についても、訪問する中で色々と失礼があったということでお叱りを受けている。

（荒川健康福祉部長）
災害対応に際して職員が不慣れなために住民の方に不安感を与えてしまった。委員の皆様からのお話や、住民説明会での皆様の声をお聞きし、反省することが非常に多いと感じる。
復興計画を策定する中で、今後同じような災害があった時に、少しでも住民の不安を軽減できるよう今回の経験を生かしていく。
被災者の生の声を職員にしっかりと伝え、一人ひとりの自覚を促していく。
復興計画をベースに市としての防災体制を作る必要性を感じている。
避難所の対応にしても、心のケアが必要。被災者の気持ちを考えて一つ一つ言葉を選ぶ必要があることを共通認識としなければならない。

（赤沼義委員）
避難所は災害の前からあらかじめ決まっているが、各避難所の責任者も決まっているのか。
（事務局）
決まっていない。
（赤沼義委員）

それが問題。ポンプ場などは管理者が決まっている。

避難所のチーフをまず決める。その下につく人員は何人必要か。

チーフは避難所の状況を把握し、どういう作業が必要かを確認する。

屋代小学校を例とすれば、学校を管理しているのは先生。そこへ市の職員が行って共同で避難所の設営を行う。

今回の災害時に杭瀬下から屋代小学校へ避難した方がいる。屋代と杭瀬下の状況は全く違うが、朝になって帰宅させられたところ、水浸しであったため再度学校に戻ってきたという話だった。

これは市の職員がいるにも関わらず状況が把握できていないため。

まずは各避難所に一人それなりの権限をもった責任者を置いて、受付、健康確認、老人施設があればどのように受け入れるかをシミュレーションしておかなければならない。

職員が入り口でただ立っているだけでは避難者に失礼だ。区長だと話しても対策本部の指示待ちをしている。最低限の判断を自分でできないような職員が配置されているようでは住民が呆れてしまう。

だからこそあらかじめ責任者を決めておくことが重要になる。

（高野委員）

受付に職員はたくさんいたが、色々聞いたが分かりませんと言われた。

朝になって食事はいつもらえるか聞いたところ、30 分位待って欲しいと言われたので待っていたが一向に出てこない。

おにぎりを出す予定だったようだが、どうやって作るかを話していた。それが被災者からは楽しそうな様子に見えた。

そのうちに水も引けたため帰宅する方が出たきた。この状況でもっと長い期間避難するとなればどうするのか。

赤沼委員のおっしゃる通り、責任者がいて食料、水、医療と何を聞いても答えられる体制を整えておかないと、人数がいても意味がない。

水が漬いている状況も、どこまで漬いているのか、どれ位漬いているのかの情報が欲しい。ホワイトボードがあるのだからそこに書いてもらいたかった。

（滝沢教育部長）

教育部は学校施設の担当をしたが、学校での避難所運営は市の職員よりも施設を良く知っている先生方が中心となって下さり、住民の方からも先生に良くしてもらったという言葉を頂いた。

施設に関しては、河川敷内が全滅しており、利用者からは早期に復旧して欲しいという要望を受けている。ようやく作業に入れるようになった。

文化会館については設計段階の調査を行っている。かなり状態が悪いため、復旧には時間がかかると思われる。

（中曽根次世代支援部長）

当時は市民協働課長として区長、自治会対応をする部署だった。

しかし災害時にはそれぞれの部署で直接区長とのやりとりや問い合わせを受けていた。

現場で中心的な立場となる区長と直接的に情報提供、あるいは連絡をとる必要性を感じている。

もう一点、避難時にどのような対応をとるのか、避難所の開設状況はといったことについても区長が中心となる予定だったが、そちらに対しての支援も不十分であった。

所管する施設の関係では、杭瀬下保育園、雨宮保育園、更埴子育て支援センターが被災した。

杭瀬下保育園は５月から仮設園舎で保育を実施している。10 月中旬には復旧工事が完了する見込みで進めている。

雨宮保育園はあんず保育園での合同保育を実施している。今後は統合保育園となり、令和４年４月から保育を開始する予定。

更埴子育て支援センターは７月 13 日から再開している。

（竹内企画政策部長）

被災時の避難所設営や情報伝達等の対応について反省していかなければならない。

市民アンケートも全て読ませて頂いたが、こちらも反省すべき点が多かった。

これから市民の皆さんに安全、安心して住んで頂くためには、今回の対応の問題点を改善するとともに、何をどう改善したのかを市民に対してお示ししなければならない。そうしなければ市民の不安は解消されないと思う。

行政の反省は何を言っても言い訳にしかならないが、反省点を改善し、実践することを示していくことでご理解頂きたい。

（事務局）

ここまで被災時の状況や反省点などをお聞かせ頂いた。

それを踏まえて、今後どのような施策をとっていくべきか。行政としての取り組み、市民としての取り組みなどあるがご意見をお聞きしたい。

（高野委員）

支援のメニューはたくさんあって助かったが、これらは全て申請しなければならない。

まずお聞きしたいのは、被災者の中でどの位の方がこれら支援を受け終わっている

のかということ。

（事務局）

（生活支援に関する進捗状況について説明）

（高野委員）

なぜこのような話をしているかといえば、被災から３か月以上たった時期に、近所の方がどのような支援を受けられるか分からないと言っていた。

必要な情報についてはその都度送られてきたが、そもそも罹災証明を出すということが分からない方がいる。

役所の言葉は難しいので、色々な通知がきても内容が分からないという声を聞いた。

応急修理も市内に登録のある業者に限るとなっている。実際には他市町村の業者であっても千曲市に登録を出してもらえば良いのだが、通知の文面で「市内」という箇所で止まってしまい、どの業者に頼めば良いか分からなくなってしまう方がいる。

そして、そのまま修理ができないでいる方がいるのではないかと思う。

罹災証明が出ていなければどうしようもないが、現在も手付かずの方、金銭的にできない方、うつ状態になってしまい家の再建ができない方もいる。

そういった方に対して市がどのようにフォローアップされているのかお聞きしたい。

（事務局）

全体的な把握はしているが、個別的なものについては現状では足りていないところもある。

委員からもお話があったが、出張困りごと相談のようにアウトリーチ型の支援を検討していかなければならないと考える。

高野委員は実際に色々な申請をされたと思う。申請の難しさについてお聞かせ願いたい。

（高野委員）

私自身はそれ程ではなかったが、まわりでは良く分からないという声をたくさん聞いた。

そもそも申請という言葉自体分からない方がいるので、個別に電話なりをして、こういう支援があるが相談はしているかという確認をする。それくらい細やかな対応をしていかないと、支援から取り残される方が出るのではないかと思う。

（事務局）

復旧状況の進捗状況にしろ、災害時にお配りした手引きにしろ、役所言葉が多く分かりにくいというご指摘を頂いた。

市民の皆様に理解して頂くためには、こういった部分から改善していくことが必要であると改めて感じた。

今後は分かりやすい表記となるよう検討をしていきたい。

（高野委員）

被災後の支援体制について、多くの支援があったがその窓口が全て異なっている。そのためどこで何を相談したら良いか分かりづらかった。

緊急時には支援別の窓口ではなく地区ごと、例えば杭瀬下の住民はここに行けばとりあえずの相談が可能になるといった体制にした方が良いのでは。

地区ごとの担当を置けば、常に同じ職員に相談ができるため、被災者の状況を把握してもらえるのではないか。

災害時の避難について、今回は土曜日の午後ということもあり家族で避難しやすかった。これが平日の昼間であれば、家族がそれぞれ職場や学校に行ってしまっており、より避難しにくくなる。そういったことも考えた上で検討をしていく必要がある。色々なパターンを考えておかなければならない。

また、実際に被災してみると、避難の際は自分の命を守ることで精一杯になる。まわりの方に声を掛けている余裕はなかった。

竹内委員も民生委員の立場から高齢者への声掛けをされたということだったが、自宅が被災してしまえばそれも困難だと思う。

そこで姉妹地区という考えはどうか。事前に連携しておくことで、どこかの地区が被災した場合にはその姉妹地区の住民がボランティアなどで助けに行く。市内全域が被災することも想定されるので、他市町村とも同じような協定を結ぶ。

そうすることで、どこで何をしたら良いか事前にはっきりするので、闇雲に動くよりも効率的な支援が可能になると考える。

もう一点、今回の災害は千曲市としては非常に大きなものであったことから、市としての防災の日としてはどうか。防災の日には、学校などで時間をとり防災教育をしていく。そうすれば防災意識の向上や、ボランティア精神が育つ助けになるのでは。

（竹内企画政策部長）

高野委員のお話で、地区担当の職員を置いてはどうかというものがあったが、それについてもう少しお聞きしたい。

被災者は色々な情報を必要としていると思うが、一人の地区担当職員ではその全てに満足する回答をすることは難しい。

それでも担当の職員と話をする事が被災者の安心につながるということか。

（高野委員）

市に電話をする際、どこに問い合わせをしたら良いかが分からない。

（赤沼義委員）

高野委員のご意見は、問い合わせする際に相談内容を振り分けて担当部署につなげ

てもらいたいというもの。
　地区ごとに担当を置くか、項目別にするのかという組織的な話は、市の内部で検討してもらえば良い。
　要するに問い合わせに対して市民が安心する回答ができる体制を作っておくということ。全てに対し完璧な回答ではなくとも、きちんといつまでに連絡をするという返答があれば一応は安心できる。
（高野委員）
　市に電話する際、受付で何課につなぐか聞かれる。その課が分からないので相談内容を伝える。その後担当部署に電話が回った際に再度同じ相談をする。結局最後には上司に相談してみますといった回答になる。それが問題。

（赤沼ー委員）
　社協としては、高齢者のケア、相談支援といったところが大事になる。
　保健師などにも回ってもらったが、少し時間がたってから訪問などをしてもらえれば、忘れられていないという安心感を与えられるのではないかと思う。
　その時一回限りの支援ではなく、長期的な支援があれば良い。
　先ほど手付かずのお宅があるのではという話があった。訪問して色々と話をする中でそういった情報についても出てくることが期待できる。
　健康状態とあわせて困りごとなどを聞くことで細かい対応も可能となるのでは。
　復興はその時限りで終わりではない。長いスパンで実施する必要があるためそのような施策も必要だと思う。
　また、高齢者に関して地域のサロンがあるが、地域に一つしかないため広い範囲で被災した場合集まることが困難。実際長野市ではコミュニティに影響が出た。
　そのため被災時にはコミュニティとして集まれる場所の提供も検討して欲しい。
（事務局）
　新型コロナウイルスの影響で、集まること自体が難しくなっている。
　高齢者ケアの現場ではどのような工夫をしているのか。
（赤沼ー委員）
　長野市でも当初はコミュニティの場を設けていたが、コロナ禍により相談支援員が地区を回るようになった。
　今後はこちらから出向くことが必要になってくる。

（竹内委員）
　市民アンケートの回答割合に注目した。
　暮らしの再建の重点施策として、「地域のコミュニティ強化」、「保健・医療・福祉体

制の確保」、「心身の健康の維持・増進」、「児童・生徒の心のケアの充実」の４つで 37.7%になる。市民が非常に不安を持っている部分であり、解決策が必要であるということだと思う。

被災者が色々な不安を抱え、その不安をどう処理したら良いか分からない状況。それを解決するために立て看板などの設置のような具体的な案が出てきた。

この復興計画策定委員会は中長期的に復興を考えていく組織。その視点で考えると、信頼関係の築かれた地域コミュニティを作っていくことが非常に重要になる。

今回の災害でも、被災し浸水の被害を受けた方がたくさんいた。そうした同じ苦しみを抱えた方同士で、思いを語り合う。普通のおしゃべりをする中で気持ちを吐き出すことができれば、心が落ち着くことにもつながる。

批判しない、されないという前提の上で話をすることが、不安の軽減になるのでは。

行政と市民の役割分担が必要だが、まず市民側としてできることは、公民館単位で地域の状況を良く分かっているリーダーを置くこと。そして行政が、そのリーダーを育てる仕組みづくりをしていく。

各地域にはそれぞれ特色がある。そのため内情が分かったリーダーが重要となる。

リーダーを中心に地域での生活などを考え、市民の側から行政に必要な施策を求めていく。ボトムアップしていく流れを作っていくことが必要ではないか。

また心身のケアについて。被災者が不安や悲しみを抱えた時に、生きる力を引き出せるようなケアが必要。

被災者に向き合い、表面的な事柄だけではなく心の奥にある気持ちを感じ取れる支援員を配置して欲しい。

（赤沼義委員）

一番大切なものは地域コミュニティ。

市でも要援護者の避難時の名簿をまとめているが中々浸透はしていない。

日常的なコミュニティをどう形成していくかということは市民の課題でもあり市の課題でもある。

今はほとんどの方が昼間はお勤めされている。高野委員のおっしゃる通り、災害が昼間であったら、高齢者などの避難が難しくなる。

コミュニティをどのように組織していくか。それによって隣同士の声掛けや、移動手段のない高齢者などの避難を支援する形ができる。

総合計画にも触れられていると思うが、それをさらに進めて強固にしていく必要があると思う。

また、経済的な支援も重要になる。

被災すると住宅の再建が必要になるが、そのためには資金の裏付けが大事。

区の話し合いでも義援金がいつもらえるのかという話が出ていた。

３月に振り込まれたということだが、それにより一定の安心感が出たとは思う。

住宅の確保についてだが、杭瀬下はアパートが多いため被災した方がたくさん転居してしまった。そうなるとアパートのオーナーも経済的な影響を受けるため、支援策を検討する必要があるのではないかと思う。

（島田市民環境部長）

地域リーダーを育てる仕組みづくりは重要だと思う。

市職員の数が減ってきている中での体制については議会からも質問を受けた。

非常勤の職員を含めると 1,000 名程度いるが、災害時の対応は正規職員でしか行えない。正規職員は保育士などを含めて 470 名であり、限られた人員で避難所の設営や連絡員、現場対応などを割り振る必要があり今後の課題だと思う。

（荒川健康福祉部長）

義援金の配分について、千曲市では床上浸水した世帯が多かった。そのため、義援金がある程度の金額集まってからの配分となった。

昨年度中に何とか２回配分ができた。今年度末までにもう１回の配分を予定している。義援金が集まり次第お配りしたい。

（滝沢教育部長）

河川敷内の都市公園や文化会館の復旧を早急に進める。

避難所の設営については反省点が多かったが、学校を避難場所とした場合に体育館のみではなく、教室も利用することにした。

特に夏場の避難などはエアコンの設置された教室を利用することで体調等に配慮できるよう進めている。

（中曽根次世代支援部長）

姉妹区の設定、相談に対する統一的な回答、公民館に地域リーダーを育てる仕組み、ケアに関する人材の配置など、良いアイデアを頂いた。

次世代支援部としても、被災した園の園児たちが被災後、分散保育や合同保育といった形になっており、保育環境の変化に対するケアが必要と考えている。

また平日に災害があった場合、安全な保育ができないということで休園措置をとらなければならない。現在休園基準をはっきりさせることに取り組んでいる。

（竹内企画政策部長）

住まいと暮らしの再建ということで、施設の復旧等については進んでおり、いつか

は終わるものと考えている。

しかし、昨日も他部会で被災された委員から再度の被災に対する不安を生涯にわたって抱えていくというお話を聞いた。

そういったことを踏まえても、長期的な復興が必要だと思う。施設の復旧ひとつをとっても、一刻も早く再建することで市民が集まり、元気を取り戻すことができる。

また、同じ委員から災害を風化させてはいけないという意見も頂いた。

いずれにしても、住まいと暮らしの再建は復興計画の中で長い目で見ていく必要があると感じている。

（赤沼義委員）

色々な意見があったが、災害は原因があって起きるもの。

災害の原因をシャットアウトすることで市民の不安が解消される。

とにかくインフラの整備を迅速に。例えば霞堤の部分をどうするのかといったことを早めに市民に情報を出していく。

霞堤を一部閉じることを検討しているようだが、千曲市だけが良くても流域全体ではどうするのかということも考えなければならない。

千曲川の治水さえしっかりしていれば災害のもとを断てる。水害からこう守っていくという情報を市民へ提供していくことが必要。

また、職員の人数については合併時からずっと減らしてきているので、少ないことは分かる。

ただ、非常勤の職員が増えているため、災害時に配置できないか検討してはどうか。

公務災害などに関係するため全ての業務は難しいが、そういったことと関係がない仕事であればどうか。

とにかく正規職員は人数が少なくても現場に出られる体制にしておく必要があると思うので検討して欲しい。

（３）その他

（その他意見なし）

４．その他

（事務局より今後のスケジュール説明）

５．閉　会